

# 若木館跡発掘調査説明資料

公益財団法人 山形県埋蔵文化財センター 令和6年10月7日(月)

## 調査要項

遺跡名	若木館跡(遺跡番号 201-232)
所在地	山形県山形市大字若木
時代・種別	中世(城館跡)
起因事業	若木土砂災害対策事業費 (砂防自然災害防止事業急傾斜)
調査依頼者	山形県村山総合支庁建設部河川砂防課
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター
調査指導	山形県県民文化芸術振興課
調査協力	山形市文化創造都市課文化財係 広福寺
現地調査	令和6年6月11日から10月11日まで
調査面積	700㎡
調査担当者	主任調査研究員 渡辺和行(現場責任者) 調査員 小幡桃花
検出遺構	土坑 溝 柱穴 ピット 整地層
出土遺物	青磁 白磁 瓦質土器 古銭

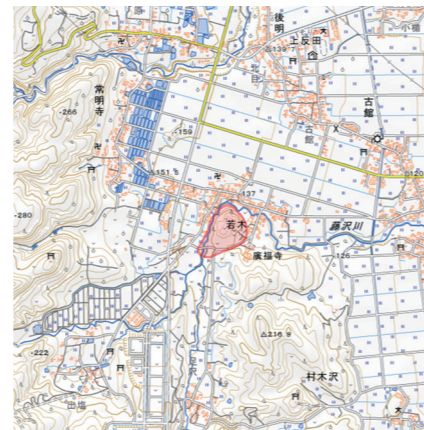


図1 遺跡位置図(1/50,000)

持つ人物が居たことがうかがえます。

また、平坦面の直上では、木炭と焼土を多く含む遺構が検出され、同じ場所で鍛冶に使用する**埴塙**が出土しています。このことから、鍛冶に関する作業を行っていたと考えられます。また小さな柱穴が検出され、何らかの建物が存在していた可能性があります。

## 東調査区

東調査区は上段部分と下段部分に分かれます。上段部分は当初トレンチ調査の予定でしたがトレンチから多くの遺構が検出されたため、拡張し現在の調査区の形となりました。遺構は柱穴と溝が確認されています。残念ながら出土する遺物が少なく、遺構の時期については明確ではありませんが、柱穴の直径が小さく、深く掘りこむ様相は中世の柱穴によくみられる特徴のため、城館が機能した時期のものと考えています。

これらの遺構が検出された場所は現在の急斜面に近いことから、城館が機能していた時には平坦面が北側に延びていたと考えられます。下段の調査区では、平坦面を作り出すための整地が行われていることが確認されました。整地層は少なくとも30cm以上の厚さがあります。

## 西調査区

西調査区でも東調査区と同様に、調査区の北半分で平坦面を作り出すための土を盛った整地層が確認されました。深さは場所によって異なりますが、深いところで1m程になります。整地層の上面からはピットや溝が確認されていますが、検出が難しい状況もあり、整地層を1段下げて遺構が確認しやすい面でも遺構を検出しました。検出される遺構は柱穴がほとんどで、東調査区上段とほぼ同様です。整地層からは17世紀後半ごろの**磁器**や中世の**青磁**などが見つかっています。これらは整地層の上層付近から出土しています。調

査区の南側では柱穴が集中している場所があり、柱の軸線もある程度そろっていることから建物が存在していたと考えられます。この部分には整地層はなく、地山が露出し地盤が安定している場所です。

## 3 まとめ

伝承では若木館跡は1400年代に造られ、その時の城主は新関氏とされています。今回の調査で出土した遺物には15世紀のものが数点あり、伝承を裏付ける資料を得ることができました。また、輸入磁器や茶臼など、中世の城館でよくみられる遺物も出土しています。また、整地層の存在から、この土地が大規模に造成されていることが分かりました。その時期は若木館跡が造られた中世か、最上氏が改易され廃城となった近世以降と考えられます。現在の地形のどの部分が城館が機能していた時期まで遡るのか、今後の検討課題です。



写真1 調査区全景(西から)

## 1 調査の概要

今回の調査は、若木地区の土砂災害防止事業に伴った発掘になります。調査区は工事用道路建設区・西調査区・東調査区の3か所に分けて行いました。

いずれの調査区も始めに現状の地形を記録するための測量を行いました。次に遺構が確認される地層まで表土を掘削し、地面を平らに削りながら遺構を検出しました。表土掘削は工事用道路建設区と東調査区は人力で、西調査区は重機で実施しています。見つかった遺構を丁寧に掘り下げ、必要に応じて写真撮影や測量などの記録作業を行いました。

いずれの調査区も遺構の残りが良い状態でした。東調査区の下段と西調査区については平坦面を作り出すために土を盛った整地層が確認されました。

## 2 見つかった遺構と遺物

調査区毎に見つかった遺構・遺物について紹介します。

### 工事用道路建設区

工事用道路の設置によって削られる部分について調査を行いました。この調査区のうち、西調査区に向かう箇所では、江戸時代後半の土地造成と考えられる痕跡が確認出来ました。

東調査区に向かう傾斜部分では、テラス状の平坦面を作り出し、その後に埋め戻している状況が確認出来ました。埋め戻された土層からは中国から輸入された15世紀頃の**青磁**や**白磁**、**古銭(永楽通寶)**などが出土しました。また、**茶臼**や**火鉢**といった道具が出土しています。戦国期にお茶の文化が日本で流行していましたが、当地でもそのような趣向を



図2 調査区概要図



写真2 工事用道路建設区 斜面地完掘状況 (北から)



写真3 工事用道路建設区 土層堆積状況 (西から)



写真4 東調査区上段 遺構検出状況 (南西から)



写真5 工事用道路建設区 焼土遺構検出 (北西から)



図3 東調査区上段 完掘平面 (オルソ画像・任意縮尺)



図4 西調査区1面 完掘平面 (オルソ画像・任意縮尺)